

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 2 区分

【発行日】平成 18 年 7 月 27 日 (2006.7.27)

【公開番号】特開 2001-32910 (P2001-32910A)

【公開日】平成 13 年 2 月 6 日 (2001.2.6)

【出願番号】特願 平 11-204196

【国際特許分類】

F 1 6 H 55/36 (2006.01)

F 1 6 D 41/06 (2006.01)

H 0 2 K 5/173 (2006.01)

H 0 2 K 7/10 (2006.01)

【F I】

F 1 6 H 55/36 Z

F 1 6 D 41/06 F

H 0 2 K 5/173 A

H 0 2 K 7/10 D

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 6 月 13 日 (2006.6.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 0】

又、上記ローラクラッチ用内輪 1 6 及び上記ローラクラッチ用外輪 1 9 と共に上記ローラクラッチ 1 0 を構成する複数個のローラ 2 1 は、上記ローラクラッチ用内輪 1 6 に、このローラクラッチ用内輪 1 6 に対する回転を不能として外嵌した合成樹脂製のクラッチ用保持器 2 2 に、転動及び円周方向に互る若干の変位自在に支持している。そして、このクラッチ用保持器 2 2 に設けた柱部と上記各ローラ 2 1 との間に、板ばね、或はこのクラッチ用保持器 2 2 と一体の合成樹脂ばね等のばねを設けて、これら各ローラ 2 1 を、円周方向に関して同方向に弾性的に押圧している。又、図示の状態で、上記クラッチ用保持器 2 2 の軸方向両端面は、上記ローラクラッチ用外輪 1 9 を構成する両鍔部 2 0 a、2 0 b の内側面と近接対向させて、このクラッチ用保持器 2 2 が軸方向に変位する事を阻止している。尚、この様なローラクラッチ 1 0 の基本的な構造及び作用は、従来から周知であるから、これ以上の詳しい図示並びに説明は省略する。